

2002 年度 システム・ネットワーク化情報交換会（第 4 回情報化委員会）記録

日時：2002 年 10 月 31 日（木）10:00～17:00

場所：南山大学名古屋図書館 3 階グループ閲覧室

司会：南山大学 笹山達成

記録：愛知工業大学 有田哲治、金城学院大学 西尾十和子

参加大学：26 大学 39 名

愛知医科大学、愛知学院大学、愛知学泉大学、愛知工業大学、愛知淑徳大学、愛知大学、愛知みずほ大学、朝日大学、岐阜経済大学、岐阜聖徳学園大学、岐阜女子大学、金城学院大学、皇學館大学、椋山女学園大学、鈴鹿医療科学大学、中京大学、中部大学、豊田工業大学、豊橋創造大学、名古屋学院大学、名古屋女子大学、名古屋造形芸術大学、南山大学、日本福祉大学、名城大学、四日市大学

< プログラム >

10:00 会場校挨拶 南山大学図書館長 大森正樹氏
委員長挨拶 情報化委員会 笹山達成委員長

10:15 システム・ネットワーク化アンケート集計結果報告 森本真委員（岐阜聖徳学園大学）
加盟 55 館における、ホームページ開設状況、利用者端末設置状況、電子ジャーナルの導入状況、資料電子化状況などについて報告がなされた。

10:45 情報交換

分科会(10:45～12:00)

以下のテーマに沿って、事前アンケートなどを基に情報交換が行われた。

- ・第一分科会 「情報センターとの連携について」 参加 14 名
既に組織統合している大学から、統合の経緯・現状・問題点などが報告された。統合していない大学からは、センターとの連携状況が報告された。また、統合の目的・意義、図書館とセンターの業務内容、日常での連携などについて意見交換が行われた。
- ・第二分科会 「IT 技術を使った利用者向けサービスについて」 参加 15 名
利用者の ID・パスワードの管理、電子ジャーナルのパスワード管理などについて各大学の現状と問題点が報告された。また、情報サービスの点からは、web 上での文献複写の受付などについて意見交換がなされた。
- ・第三分科会 「利用者端末セキュリティについて」 参加 10 名
利用者端末に対するセキュリティについて、有料またはフリーの監視ソフトを利用したり、セキュリティポリシーで制御している事例が報告された。また、学生の持ち込みパソコンへの対応や、学外者の端末使用などについての情報交換がなされた。

全体会(12:00～12:30)

各分科会の報告がなされ、続いて全体の質疑応答が行われた。

分科会報告

- ・第一分科会報告 森本真委員（岐阜聖徳学園大学）
組織統合を行った大学の経緯が報告された。ほとんどが上からの指示、トップダウンで組織統合を行っているが、現場から統合に至ったという大学もあった。統合されていない大学ではセンターとの連携が不十分との意見が大半である。最終的には図書館のすべき仕事は何であるか考え直すことが重要であるとの意見が出された。統合するにしても、図書館がすべき業務、センターが教育的にすべき業務、インフラ整備・危機管理ですべき業務をきちんと分けることが必要であり、互いに業務連絡を密に行い、業務を見直すことで上手く連携がとれるのではないかと結論となった。
- ・第二分科会報告 河路峰雄委員（椋山女学園大学）
利用者パスワードの管理について各大学の現状が報告された。ID カードによりユーザー認証を行っている大学が多い。図書館の ID・パスワードと他部署の ID・パスワードが異なる

っている大学が多く、学生は不便を感じている。事例として、名古屋学院大学では、キャンパスコミュニケーションシステムというシステムが稼動しており、大学全体でポータルサイトで情報が見られる仕組みになっている。図書館の情報も提供しているとの報告があった。電子ジャーナルのパスワード管理については、サイト契約すると館員に負担がかからずに管理できるとの意見があった。利用者端末の管理については集中的に管理するソフトを利用したり、実際に館員が見回っているとの意見があった。携帯電話を利用した図書館サービスについてはあまり取り上げる大学はないが、金沢地区の大学で携帯電話の検索システムが集中的に見られるという事例の紹介があった。また、携帯電話での督促は非常に有効であるとの報告があった。web上での情報サービスでは、文献複写の受付を行っている大学が複数あるが、料金の決済の件もあり、利用者を限定している大学が多い。利用者教育では、新技術として図書館のオリエンテーションをインターネットで流して、web上で見るという技術が開発されており、授業の教材として図書館の情報検索を取り入れている事例も紹介された。

・第三分科会報告 古田明彦委員（中部大学）

利用者端末のセキュリティについて各大学の現状が報告された。続いて事前アンケートに基づいて意見交換を行った。愛知みずほ大学からの「学生が使用する端末についてのセキュリティ上注意している点、問題点について」という質問に対して、「端末を物理的に監視できる場所に設置する。」「セキュリティポリシーで制限する。」「監視ソフトを利用する。」との回答があった。皇學館大学からの「オンラインからの ILL 申込み等の本人の認証」という質問に対して、「図書館で ID・パスワードを発行する。」「センターの ID・パスワードをシステムの認証する。」「ホームページ上にある Word 形式の申込用紙をダウンロードしてもらい、メールの添付ファイルで受け取っている。メールアドレスで本人確認ができるため、図書館からは確認していない。」などの回答があった。中部大学からの「パソコン持ち込み可能な場合のセキュリティについて」という質問に対して、「基本的にはセンターの ID・パスワードを確認する。」という回答があったが、確認方法としてはセンターに直接確認に行くか、センターに確認に行くようなシステムを作るかの 2 つに分かれた。その他の質問として、利用者の持ち込むフロッピーに対するセキュリティ、図書館と他部署の ID・パスワードの統合方法、学外者に対する ID・パスワードの発行についてなどがあったが、具体的な回答は出されなかった。

・全体の質疑応答

以下のような質疑応答がなされた。

朝日大：既に組織統合している大学で ID・パスワードを統一している大学はあるか？
統一しているならメリット、デメリットを伺いたい。

豊田工大：情報処理担当教員からは統一したいと申し入れはあるが、情報処理関連施設を利用するための ID・パスワードは新生が情報リテラシー教育を受講してから発行されており、図書館にとっては遅すぎる。学生は ID・パスワードが複数存在することに不便を感じているので解決策があれば伺いたい。
名古屋学院のポータルサイトについて詳しくお聞きしたい。

名学院大：今年 4 月からキャンパスコミュニケーションシステムが稼動している。学生個人のページがあり、各課からの個人への情報はすべてそこに集まる。学生は ID・パスワードで入る。図書館では来夏次期システム導入時に個人の貸出情報などの提供を検討中。実際できるかどうかはまだ不明だが、学生がひとつの ID・パスワードで自分に対するすべての情報を得られるよう目指している。

愛知大：完全統合ではないが、web で利用状況が見られるページを作成しており、その利用に際して使う ID・パスワードがメールサーバで使用しているものと同じ。仕組みとしては情報処理センターがすべて管理し、認証するサーバに対して入口を設けて、図書館のサーバからユーザー名とパスワードを投げて確認している。学外者も図書館で登録時にセンターの登録も可能なので、希望すれば利用状況は見る事ができる。全員の登録ではないがこのような運用の仕方もある。

アンケート結果報告に対して以下のような訂正、要望が出された。

豊田工大：大学名を豊田工業大学総合情報センターに訂正。

金城大：電子ジャーナルの利用に対する質問で、単体契約かサイト契約かわかるようにし

てほしい。サイト契約ならコンソーシアムでの利用の参考資料にできる。

愛淑大 : パッケージ名について、LIMEDIO はバージョンが変更されても名称が変わらない。バージョンが変わると製品が全く異なるので、今後はバージョンも明記していきたい。

愛学泉大 : 豊田図書館のシステム利用開始年を 2002 年に訂正。

12:30 昼食及び南山大学図書館見学 (自由見学)

14:00 講演「図書館と情報センターとの組織統合・連携

事例：愛知淑徳大学総合情報メディアセンター」

講演者 愛知淑徳大学 教授 西荒井 学 氏

総合情報メディアセンターが設置される背景ならびにセンター設置のねらい、現センターの組織構成と機能的役割が紹介された。最後にまとめとして、現状における問題点と今後の課題について、情報センター側の視点から講演があった。

上記講演に対して、下記のような質疑応答があった。

1) 総合情報メディアセンター構成員の内訳。システム支援部とサービス部及び教職員の内訳について。

2) 情報メディアサービス部と情報システム支援部の定期的なミーティングを行っているのか。

3) 統合によって情報センター側からは得られるメリットはあるのか? 統合をいやがる情報センターの説得の仕方について。

上記、1) については、情報メディアサービス部は既設図書館名が残っているので図書館長が兼務している部長 1 名が教員。情報システム支援部は、情報システム支援部長 (西荒井氏) と副部長 2 名だけが教員。他スタッフは職員。2) については、定期的にはないが、必要時に担当部署スタッフ同士が打ち合わせをしている。今後は定期的なものを強化。3) 情報センター独自のメリットはないと思うが、全学的な運用の意味では、かなり意味がある。

15:30 休憩

15:45 プレゼンテーションセミナー 1

「洋雑誌バックナンバーの電子アーカイブ利用について」 株式会社紀伊國屋書店 人文・社会科学分野の欧文雑誌記事索引を、創刊号から 1990 年 (一部 1995 年) まで収録したデータベース、PCI (Periodicals Contents Index) Full Text の説明及びデモンストレーションが行われた。

16:20 プレゼンテーションセミナー 2

「状況判断型リンクメニュー作成ツール EX Libris 社の SFX」 ユサコ株式会社 商用データベース、電子ジャーナル、OPAC、などの Web ベースの資源をリンクで結び、切れ目ない情報探索を提供できるツール SFX の説明とデモンストレーションが行われた。

17:00 閉会

以上

